

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5479220号
(P5479220)

(45) 発行日 平成26年4月23日 (2014. 4. 23)

(24) 登録日 平成26年2月21日 (2014. 2. 21)

(51) Int. Cl.

F 1

A 6 1 F 13/56 (2006. 01)

A 6 1 F 13/18 3 5 O

A 6 1 F 13/472 (2006. 01)

A 6 1 F 13/18 3 4 O

A 6 1 F 13/15 (2006. 01)

請求項の数 7 (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2010-118804 (P2010-118804)	(73) 特許権者	000115108
(22) 出願日	平成22年5月24日 (2010. 5. 24)		ユニ・チャーム株式会社
(62) 分割の表示	特願2009-87152 (P2009-87152)		愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地
原出願日	平成21年3月31日 (2009. 3. 31)	(74) 代理人	100099759
(65) 公開番号	特開2010-240453 (P2010-240453A)		弁理士 青木 篤
(43) 公開日	平成22年10月28日 (2010. 10. 28)	(74) 代理人	100077517
審査請求日	平成24年3月16日 (2012. 3. 16)		弁理士 石田 敬
		(74) 代理人	100087413
			弁理士 古賀 哲次
		(74) 代理人	100093665
			弁理士 蛭谷 厚志
		(74) 代理人	100153729
			弁理士 森本 有一
		(74) 代理人	100139022
			弁理士 小野田 浩之

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 吸収性物品

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

液透過性トップシート、液不透過性バックシート、及びこれらトップシートとバックシートとの間に配置された吸収体を含む吸収本体を具備した吸収性物品において、トップシートの表面のほぼ全体を覆う1枚のカバーシートを具備し、該カバーシートの周縁領域が吸収本体に接合されると共に、該カバーシートの中央領域に、弱め線又は切断線からなる区画線により、吸収本体を衣類に固定するための少なくとも3つのフラップが区画され、使用時にこれらフラップが折り曲げ領域においてそれぞれ折り曲げられ拡げられて衣類にそれぞれ固着され、前記少なくとも3つのフラップが、吸収本体の前後端縁に沿う折り曲げ領域においてそれぞれ折り曲げられ前後方向に拡げられる前フラップ及び後フラップの少なくともいずれか一方のフラップであって先端が湾曲した半長円状に形成されるフラップと、吸収本体の左右側縁に沿う折り曲げ領域においてそれぞれ折り曲げられ左右方向に拡げられる左フラップ及び右フラップであって台形状に形成される左フラップ及び右フラップとを含む、吸収性物品。

【請求項 2】

前記少なくとも3つのフラップが、吸収本体の前後端縁に沿う折り曲げ領域においてそれぞれ折り曲げられ前後方向に拡げられる前フラップ及び後フラップと、吸収本体の左右側縁に沿う折り曲げ領域においてそれぞれ折り曲げられ左右方向に拡げられる左フラップ及び右フラップとを含む、請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 3】

前記少なくとも3つのフラップが、折り曲げ領域においてそれぞれ折り曲げられて衣類の内面に固着される内面固着フラップと、折り曲げ領域においてそれぞれ折り曲げられて衣類の外面にそれぞれ固着される外面固着フラップとを含む、請求項1又は2に記載の吸収性物品。

【請求項4】

前記先端が湾曲した半長円状に形成されるフラップが、前記内面固着フラップとされる、請求項3に記載の吸収性物品。

【請求項5】

前記少なくとも3つのフラップを衣類に固着させる固着部が該フラップにそれぞれ取り付けられており、これら固着部周りのフラップ領域の剛性が残りのフラップ領域の剛性よりも高く設定されている、請求項1から4までのいずれか一項に記載の吸収性物品。

10

【請求項6】

前記少なくとも3つのフラップを衣類に固着するための固着部が区画線から離間してフラップに取り付けられている、請求項1から5までのいずれか一項に記載の吸収性物品。

【請求項7】

前記カバーシートが液不透過性である、請求項1から6までのいずれか一項に記載の吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

20

本発明は吸収性物品に関する。

【背景技術】

【0002】

液透過性トップシート、液不透過性バックシート、及びこれらトップシートとバックシートとの間に配置された吸収体を含む吸収本体を備え、トップシートの表面を覆うカバーシートに、弱め線により、吸収本体を衣類に固定するための一対のフラップが区画され、使用時に一対のフラップがそれぞれ折り曲げられ拡げられて衣類にそれぞれ固着される、吸収性物品が公知である（特許文献1参照）。この特許文献1の図1から図4に示される実施例では左右方向に拡げられる一対のフラップが設けられ、図5に示される実施例では前後方向に拡げられる一対のフラップが設けられる。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特表平9-512454号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、吸収本体をたった一対のフラップでもって衣類に固定するのは現実的には困難である。その結果、吸収本体の擦れ又は位置ずれが生じ、経血や尿といった被吸収液が漏れるおそれがある。

40

【課題を解決するための手段】

【0005】

前記課題を解決するために本発明によれば、液透過性トップシート、液不透過性バックシート、及びこれらトップシートとバックシートとの間に配置された吸収体を含む吸収本体を具備した吸収性物品において、トップシートの表面を覆うカバーシートを具備し、該カバーシートの周縁領域が吸収本体に接合されると共に、該カバーシートの中央領域に、弱め線又は切断線からなる区画線により、吸収本体を衣類に固定するための少なくとも3つのフラップが区画され、使用時にこれらフラップが折り曲げ領域においてそれぞれ折り曲げられ拡げられて衣類にそれぞれ固着される、吸収性物品が提供される。

【発明の効果】

50

【 0 0 0 6 】

吸収本体を衣類に確実に固着することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 7 】

【図 1】生理用ナプキンの正面図である。

【図 2】生理用ナプキンの背面図である。

【図 3】図 1 の線 I I I - I I I に沿って見た生理用ナプキンの概略横断面図である。

【図 4】フラップを展開した生理用ナプキンの正面図である。

【図 5】使用状態を説明するための生理用ナプキンの概略縦断面図である。

【図 6】使用状態を説明するための生理用ナプキンの概略横断面図である。

10

【図 7】本発明による別の実施例を示す生理用ナプキンの正面図である。

【図 8】本発明による別の実施例を示す生理用ナプキンの (A) 正面図及び (B) 概横略断面図である。

【図 9】区画線の変更例を示す生理用ナプキンの正面図である。

【図 1 0】カバーシートの変更例を示す生理用ナプキンの正面図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 0 8 】

図 1 から図 3 は本発明を生理用ナプキンに適用した場合を示している。しかしながら、本発明をパンティーライナ、失禁パッドといった他の吸収性物品に適用することもできる。

20

【 0 0 0 9 】

図 1 から図 3 を参照すると、本発明による実施例の生理用ナプキン (以下、単に「ナプキン」とも言う。) 1 は吸収本体 2 を具備する。この吸収本体 2 は液透過性のトップシート 3 と、液不透過性のバックシート 4 と、これらトップシート 3 とバックシート 4 との間に配置された液保持性の吸収体 5 とを具備する。トップシート 3 及びバックシート 4 はほぼ同じ大きさであり、これらの周縁においてホットメルト接着剤、ヒートシール加工等により互いに接合される。また、使用時に下着のような衣類に向けられるバックシート 4 の表面には、吸収本体 2 を下着に固着するための粘着部 6 が接合され、この粘着部 6 は保護シート 7 によって覆われる。

【 0 0 1 0 】

30

なお、図 1 において 2 F , 2 B , 2 L , 2 R はナプキン 1 ないし吸収本体 2 の前端縁、後端縁、左側縁、右側縁をそれぞれ示している。この場合の前後左右は使用時のユーザの身体の前後左右に対応している。

【 0 0 1 1 】

使用時にユーザの肌に当接するトップシート 3 の表面は液不透過性のカバーシート 8 によって覆われる。このカバーシート 8 は吸収本体 2 とほぼ同じ大きさであり、したがってトップシート 3 のほぼ全面を覆っている。また、カバーシート 8 はその環状の周縁領域 8 P においてホットメルト接着剤、ヒートシール加工等によりトップシート 3 ないし吸収本体 2 に接合される。これに対し、周縁領域 8 P 以外の領域である中央領域 8 C はトップシート 3 に接合されない。

40

【 0 0 1 2 】

カバーシート 8 の中央領域 8 C には、ミシン目のような弱め線からなる区画線 9 があらかじめ形成されており、この区画線 9 によって中央領域 8 C に、吸収本体 2 を下着に固定するための複数のフラップが区画ないし形成される。なお、区画線 9 を、カバーシート 8 を完全に切断する切断線から構成することもできる。

【 0 0 1 3 】

本発明による実施例では、区画線 9 は、前端縁 2 F に向け拡開する U 字状曲線部分 9 F と、後端縁 2 B に向け拡開する U 字状曲線部分 9 B と、カバーシート 8 のほぼ中央においてこれら曲線部分 9 F , 9 B の頂点を互いに結ぶ直線部分 9 S とから構成される。したがって、中央領域 8 C には、4 つのフラップ、すなわち先端が湾曲した半長円状の前フラッ

50

プ１０Ｆ及び後フラップ１０Ｂと、台形状の左フラップ１０Ｌ及び右フラップ１０Ｒとが区画される。この場合、前後フラップ１０Ｆ，１０Ｂは互いに対称的に位置し、左右フラップ１０Ｌ，１０Ｒも互いに対称的に位置している。

【００１４】

この場合、区画線９は周縁領域８Ｐまで到達しておらず、したがって区画線９の端部と周縁領域８Ｐとの間に非切断領域８Ｎが形成される。

【００１５】

これらフラップ１０Ｆ，１０Ｂ，１０Ｌ，１０Ｒの表面にはそれぞれ対応するフラップ１０Ｆ，１０Ｂ，１０Ｌ，１０Ｒを下着に固着するための粘着部１１が接合される。また、これら粘着部１１は共通の保護シート１２によって覆われる。この場合、粘着部１１は区画線９から離間してフラップ１０Ｆ，１０Ｂ，１０Ｌ，１０Ｒに接合され、したがって粘着部１１周りのフラップ１０Ｆ，１０Ｂ，１０Ｌ，１０Ｒには非粘着領域１３が形成される。

10

【００１６】

次に、各要素の素材について説明する。

【００１７】

トップシート３は例えば有孔又は無孔の不織布や多孔性プラスチックシートから構成される。

【００１８】

バックシート４は例えば疎水性の不織布、不透水性のプラスチックフィルム、不織布と不透水性プラスチックフィルムとのラミネートシート、耐水性の高いメルトブローン不織布、強度の強いスパンボンド不織布で挟んだＳＭＳ不織布から構成される。

20

【００１９】

吸収体５は例えばフラッフ状パルプ又はエアレイド不織布と高吸収ポリマーとから構成される。ここで、フラッフ状パルプは例えば化学パルプ、セルロース繊維、レーヨン、アセテート等の人工セルロース繊維から構成され、エアレイド不織布は例えばパルプと合成繊維とを熱融着させ又はバインダーで固着させた不織布から構成され、高吸収ポリマーは例えばデンプン系、アクリル酸系、アミノ酸系の粒子状又は繊維状のポリマーから構成される。

【００２０】

粘着部６，１１は例えばスチレン－イソプレン－スチレンブロック共重合体（ＳＩＳ）、スチレン－ブタジエン－スチレンブロック共重合体（ＳＢＳ）、スチレン－エチレン－ブチレン－エチレン共重合体（ＳＥＢＳ）等のホットメルト粘着剤から構成される。

30

【００２１】

カバーシート８は例えば疎水性の不織布、不透水性のプラスチックフィルム、不織布と不透水性プラスチックフィルムとのラミネートシート、耐水性の高いメルトブローン不織布、強度の強いスパンボンド不織布で挟んだＳＭＳ不織布から構成され、好ましくは疎水性不織布から構成される。カバーシート８の坪量は 15 g/m^2 から 60 g/m^2 が好ましい。プラスチックフィルムから構成される場合には、プラスチックフィルムのドレープ性はカンチレバー法で 20 mm から 100 mm が好ましく、 30 mm から 70 mm が更に好ましい。ドレープ性が 20 mm よりも小さいと、カバーシート８が撚れ易くなるからである。一方、ドレープ性が 100 mm よりも大きいと、カバーシート８が硬くなるので、ナプキン１の使用感を悪化させるおそれがあり、下着への追従性が低下して被吸収液が漏れるおそれがあるからである。

40

【００２２】

なお、上述のカンチレバー法はＪＩＳ－Ｌ１０１８に準じて次のように行われる。すなわち、長さ 150 mm 、幅 25 mm の測定対象を５枚重ねて測定サンプルを得る。次いで、大栄科学精器製作所製のカンチレバーを用い、測定サンプルをカンチレバーの押さえ板下に挟み、斜面方向に滑らせ速度 5 mm/s で移動距離を自動測定する。測定サンプルの表面を下にした場合と、測定サンプルの裏面を下にした場合の両方について測定し、

50

これらの平均を測定結果とする。

【 0 0 2 3 】

さて、ナプキン 1 は次のようにして下着に固着される。すなわち、まず、バックシート 4 側の保護シート 7 が取り外され、ナプキン 1 ないし吸収本体 2 が粘着部 6 を介し下着に固着される。このときトップシート 3 はカバーシート 8 によって覆われているので、トップシート 3 が汚れるのが阻止されている。

【 0 0 2 4 】

次いで、カバーシート 8 の中央領域 8 C が区画線 9 に沿って破断される。その結果、互いに分離した 4 つのフラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R が形成される。

【 0 0 2 5 】

次いで、図 4 に示されるように、これらフラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R がそれぞれ上げられる。すなわち、前フラップ 1 0 F は前端縁 2 F に沿う折り曲げ領域 1 4 F において折り曲げられて前方向に上げられ、後フラップ 1 0 B は後端縁 2 B に沿う折り曲げ領域 1 4 B において折り曲げられて後方向に上げられる。また、左フラップ 1 0 L は左側縁 2 L に沿う折り曲げ領域 1 4 L において折り曲げられて左方向に上げられ、右フラップ 1 0 R は右側縁 2 R に沿う折り曲げ領域 1 4 R において折り曲げられて右方向に上げられる。その結果、トップシート 3 が露出される。

【 0 0 2 6 】

次いで、フラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R がそれぞれの粘着部 1 1 を介し下着に固着される。すなわち、ナプキン 1 の縦断面を示す図 5 に示されるように、前フラップ 1 0 F が吸収本体 2 前方の下着 U の内面 U I に固着され、後フラップ 1 0 B が吸収本体 2 後方の下着 U の内面 U I に固着される。また、ナプキン 1 の横断面を示す図 6 に示されるように、左フラップ 1 0 L 及び右フラップ 1 0 R が吸収本体 2 下方の下着 U の外面 U O にそれぞれ固着される。

【 0 0 2 7 】

このようにしてフラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R が下着 U に固着され、したがって吸収本体 2 が下着 U に固定される。この場合、前フラップ 1 0 F 及び後フラップ 1 0 B のように前後方向に上げられて固着される前後方向フラップと、左フラップ 1 0 L 及び右フラップ 1 0 R のように左右方向に上げられて固着される左右方向フラップとの両方によって吸収本体 2 が下着 U に固定される。また、前フラップ 1 0 F 及び後フラップ 1 0 B のように下着内面 U I に固着される内面固着フラップは下着 U とユーザ身体とに挟まれることにより保持される。一方、左フラップ 1 0 L 及び右フラップ 1 0 R のように下着 U の外面 U O に固着される外面固着フラップは下着 U を吸収本体 2 との間に挟みこむ。

【 0 0 2 8 】

したがって、吸収本体 2 にさまざまな方向の外力が作用しても、吸収本体 2 のずれや位置ずれを抑制することができる。すなわち、吸収本体 2 を下着 U に確実に固定することができ、したがって被吸収液の漏れを抑制することができる。また、漏れに対するユーザの不安をなくすことができる。

【 0 0 2 9 】

本発明による実施例では、前フラップ 1 0 F 及び後フラップ 1 0 B のような内面固着フラップの先端が湾曲しているので、前フラップ 1 0 F 及び後フラップ 1 0 B がユーザ身体に当接したときの痛みや違和感が抑制される。

【 0 0 3 0 】

また、フラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R 、具体的にはそれらの先端に非粘着領域 1 3 が形成されているので、ユーザは非粘着領域 1 3 を摘んでフラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R を取り扱うことが可能となり、したがって吸収本体 2 を下着 U に簡単に固定することができる。

【 0 0 3 1 】

ここで、図 4 からわかるように、折り曲げ領域 1 4 F , 1 4 B , 1 4 L , 1 4 R は概ね、区画線 9 の互いに隣接する 2 つの端部を結ぶ直線上に位置している。一方、図 1 に示さ

10

20

30

40

50

れるように、区画線 9 の端部と周縁領域 8 P との間には非切断領域 8 N が形成されている。したがって、図 5 及び図 6 に示されるように、周縁領域 8 P と折り曲げ領域 1 4 F , 1 4 B , 1 4 L , 1 4 R ないしフラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R との間のカバースシート 8 に、カバースシート 8 の全周にわたり連続して広がる防漏領域 1 5 が形成されることになる。この防漏領域 1 5 はトップシート 3 の表面に沿って吸収本体 2 の外部に向かう被吸収液の流れを規制し、したがって防漏壁として作用する。

【 0 0 3 2 】

本発明による実施例では、1 枚のカバースシート 8 を吸収本体 2 に接合するだけで、防漏壁として作用する防漏領域 1 5 が形成される。したがって、防漏作用を簡単に得ることができる。また、防漏領域 1 5 には継ぎ目がない。しかも、下着 U に固着するためにフラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R が引っ張られると、防漏領域 1 5 の内縁がトップシート 3 から立ち上がるので、被吸収液が防漏領域 1 5 によって確実に捕捉される。したがって、被吸収液の漏れを確実に抑制することができる。

10

【 0 0 3 3 】

なお、周縁領域 8 P の幅は 2 mm から 1 0 mm が好ましく、3 mm から 5 mm が更に好ましい。周縁領域 8 P の幅が 2 mm よりも狭いと、カバースシート 8 と吸収本体 2 との接合強度が低下するからである。また、周縁領域 8 P の幅が 1 0 mm よりも広いと、フラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R が広げられたときに露出されるトップシート 3 の表面が狭くなるからである。すなわち、トップシートが広く露出されると、ナプキン 1 ないし吸収本体 2 の下着 U に対する固着位置が適正位置から多少外れたとしても、被吸収液の漏れを抑制できる。

20

【 0 0 3 4 】

一方、非切断領域 8 N の幅は 2 mm から 1 0 mm が好ましく、3 mm から 5 mm が更に好ましい。非切断領域 8 N の幅が 2 mm よりも狭いと、非切断領域 8 N におけるカバースシート 8 の引張強度が低下し、防漏領域 1 5 の防漏効果が低下するからである。また、非切断領域 8 N の幅が 1 0 mm よりも広いと、フラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R が広げられたときに露出されるトップシート 3 の表面が狭くなるからである。

【 0 0 3 5 】

次に、本発明による別の実施例を説明する。

【 0 0 3 6 】

本発明による別の実施例では、フラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R のうち粘着部 1 1 周りの領域の剛性が他の領域の剛性よりも高く設定されている。

30

【 0 0 3 7 】

すなわち、図 7 に示される例では、粘着部 1 1 周りにエンボス加工が施されたエンボス領域 2 0 が設けられる。これに対し、残りの領域 2 1 にはエンボス加工が施されない。一方、図 8 (A) , 8 (B) に示される例では、粘着部 1 1 周りに追加シート 2 2 が接合される。これに対し、残りの領域 2 1 には追加シート 2 2 が接合されない。

【 0 0 3 8 】

このようにすると、フラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R の取り扱いが容易になり、フラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R を下着 U に簡単に固着することができる。

40

【 0 0 3 9 】

ここで、フラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R 全体に対するエンボス領域 2 0 又は追加シート 2 2 の占める割合は 2 0 % 以上が好ましく、4 0 % から 1 0 0 % が特に好ましい。

【 0 0 4 0 】

なお、図 7 に示される例において、エンボス領域 2 0 が凹凸パターンであると、フラップ 1 0 F , 1 0 B とユーザ身体との接触面積を低減できるので、ムレが防止され、装着感が向上される。また、フラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R に粘着部 1 1 を接合する場合のホットメルト接着剤の転写性に優れている。

【 0 0 4 1 】

50

また、図 8 (A) , 8 (B) に示される例において、追加シート 2 2 はカバーシート 8 と同じ素材でもよいし、他の素材でもよい。更に、追加シート 2 2 をカバーシート 8 の裏面に接合してもよい。追加シート 2 2 の接合にはホットメルト接着剤等が用いられる。区画線 9 は追加シート 2 2 がカバーシート 8 に接合された後に形成され、したがって追加シート 2 2 にも形成されている。

【 0 0 4 2 】

なお、図 7 及び図 8 (A) , 8 (B) に示される例では、粘着部 1 1 はそれぞれ別個の保護シート 1 2 によって覆われている。当然、共通の保護シート 1 2 を設けることもできる。

【 0 0 4 3 】

ところで、別の見方をすると、図 7 及び図 8 (A) , 8 (B) に示される例では、折り曲げ領域 1 4 F , 1 4 B , 1 4 L , 1 4 R を含む残りの領域 2 1 の剛性がエンボス領域 2 0 又は追加シート 2 2 が接合された領域の剛性よりも低く設定されているということになる。その結果、フラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R を折り曲げて拡げるのが容易になる。

【 0 0 4 4 】

これまでの説明では、カバーシート 8 の中央領域 8 C に 4 つのフラップが区画されるように区画線 9 が形成されている。しかしながら、フラップの数は 4 つでなくてもよい。すなわち、図 9 (A) に示されるように中央領域 8 C に 3 つのフラップ 1 0 F , 1 0 L , 1 0 R が区画されるように区画線 9 を形成してもよいし、図 9 (B) に示されるように中央領域 8 C に 6 つのフラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L F , 1 0 L B , 1 0 R F , 1 0 R B が区画されるように区画線 9 を形成してもよい。

【 0 0 4 5 】

したがって、包括的に言うと、カバーシート 8 の中央領域 8 C に、区画線 9 によって少なくとも 3 つのフラップが区画されるということになる。

【 0 0 4 6 】

更に、これまでの説明ではカバーシート 8 は 1 枚のシートから構成されている。しかしながら、カバーシート 8 を互いに分離した複数枚のカバーシート部分から構成することもできる。すなわち、図 1 0 に示される例では、カバーシート 8 が例えば 4 枚のカバーシート部分 3 0 から構成される。この場合、これらカバーシート部分 3 0 はトップシート 3 の表面をそれぞれ部分的に覆い、しかしながら全体としてトップシート 3 の表面をほぼ全体的に覆っている。また、互いに隣接するカバーシート部分 3 0 同士間に形成される区画線 9 は周縁領域 8 P を横切って延びている。更に、図 1 0 に示される例では、カバーシート部分 3 0 がフラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R をそれぞれ形成している。なお、1 枚のカバーシート部分 3 0 により複数のフラップ 1 0 F , 1 0 B , 1 0 L , 1 0 R が形成されるようにしてもよい。また、カバーシート部分 3 0 は互いに重なり合っているもよい。

【 符号の説明 】

【 0 0 4 7 】

- 1 生理用ナプキン
- 2 吸収本体
- 3 トップシート
- 4 バックシート
- 5 吸収体
- 8 カバーシート
- 8 C 中央領域
- 8 P 周縁領域
- 9 区画線
- 1 0 F 前フラップ
- 1 0 B 後フラップ

10

20

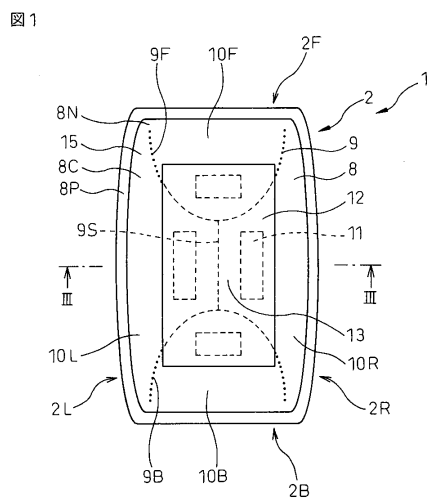
30

40

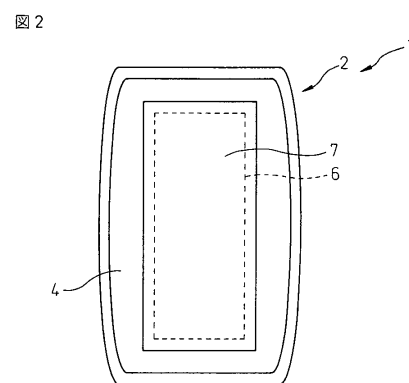
50

- 10L 左フラップ
- 10R 右フラップ
- 11 粘着部
- 13 非粘着領域
- 14F, 14B, 14L, 14R 折り曲げ領域
- 15 防漏領域
- 20 エンボス領域
- 21 残りの領域
- 22 追加シート

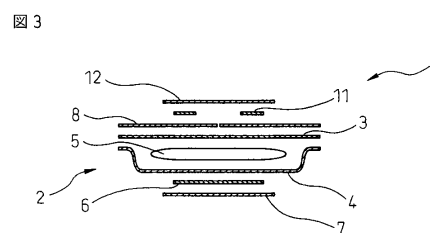
【図1】



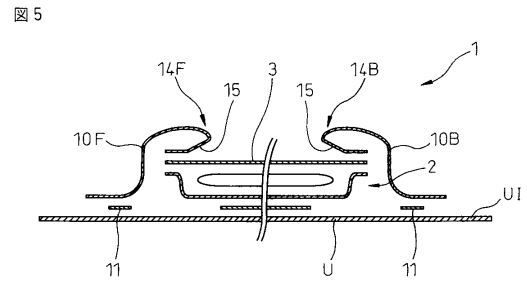
【図2】



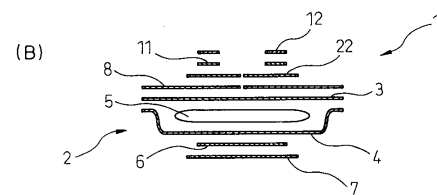
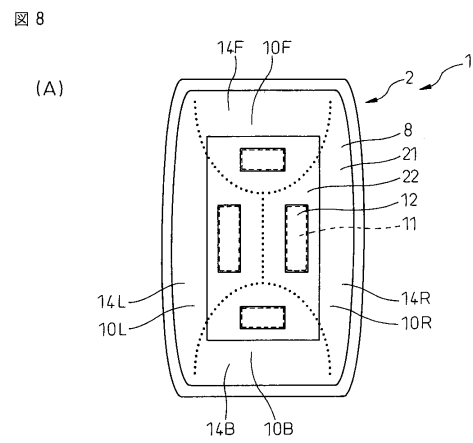
【図3】



【 図 5 】

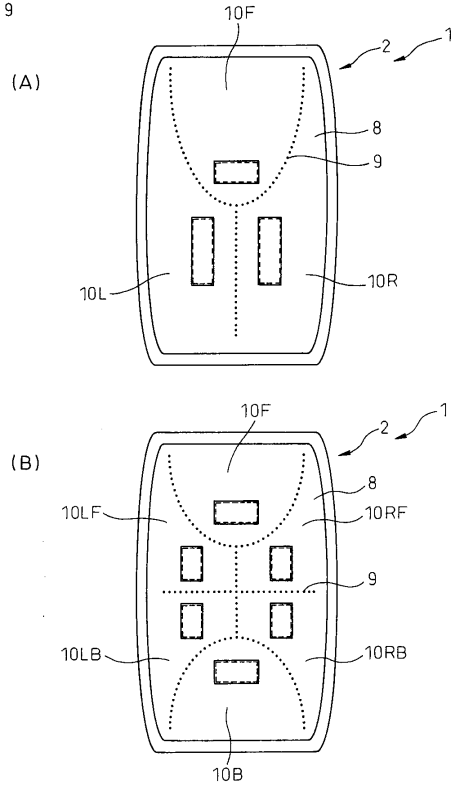


【 図 8 】



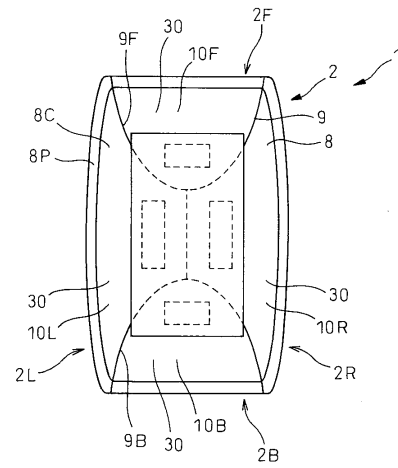
【図 9】

図 9



【図 10】

図10



フロントページの続き

(72)発明者 野本 貴志

香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内

(72)発明者 永田 明保

香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内

審査官 北村 龍平

(56)参考文献 特表平 0 9 - 5 1 2 4 5 4 (J P , A)

特開 2 0 0 2 - 3 3 0 9 9 2 (J P , A)

特開平 1 1 - 1 1 3 9 5 9 (J P , A)

特開 2 0 0 1 - 0 4 6 4 2 5 (J P , A)

特開 2 0 0 8 - 1 8 8 1 8 1 (J P , A)

実開平 0 6 - 0 3 8 9 5 3 (J P , U)

特開平 0 8 - 2 2 4 2 7 2 (J P , A)

特表 2 0 0 8 - 5 2 2 7 7 0 (J P , A)

特開 2 0 0 5 - 1 8 5 5 1 9 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

A 6 1 F 1 3 / 0 0

1 3 / 1 5 - 1 3 / 8 4